

# 東京農業大学稲花小学校

学校だより【2024年4月8日】第203号



## 入学式を挙行いたしました

4月6日(土)、農大稲花小では第6期生となる72名の新生とその保護者の皆様、そして来賓の方々をお迎えして、入学式を挙行いたしました。

上級生が植えた歓迎のチューリップやネモフィラなどの鉢植えが並び、桜の花も満開の日、新生はかわいらしい制服姿で登校しました。同級生や担任あるいは学年担任の先生との初顔合わせ、入学式、記念撮影などが続きました。どの子どもも、先生の指示に従い入学式でも、呼名に元気に応えることができました。保護者の皆様には、学校よりの諸注意をお伝えしました。学校の方針をご理解の上、子どもたちの成長のためにも手を携えていけることを願っています。

ご来賓の皆様、また、当日の運営にご協力いただきました東京農業大学教育後援会の皆様には御礼を申し上げます。新生は、農大稲花小からの「農大稲花小紅白饅頭(風間堂)」に加えて、連合教育後援会からのお祝いの品「お箸セット」、農大稲花小教育後援会からのお祝いの品「農大稲花小ナップザック」、東京農業大学との連携企業であり本校の食育にもご協力いただいているアルファード食品様からのお祝いの品「お赤飯」を持ち帰りました。お祝いの品をご寄贈いただきました皆様にも御礼申し上げます。

東京農業大学稲花小学校  
校長 夏秋 啓子

## 2024年度入学式における校長式辞

東京農業大学稲花小学校 新生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

新生の皆さん、そして、保護者の皆様も、今日の入学式を楽しみに待っていたことでしょう。今日、皆さんの嬉しそうな顔を見ると、私たち、農大稲花小の教職員も皆、同じように嬉しい気持ちでいっぱいです。また本日は、皆さんの入学をお祝いして、ご来賓の方々もいらしています。農大稲花小や農大稲花小の子どもたちを応援してくれる方々が、たくさんいらっしゃるというのも、とても嬉しいことです。新生の皆さんは、お父様やお母さま、そして、たくさんの方々の応援の中で、小学生になりました。

新生の皆さんは、これから、農大稲花小でたくさんの勉強をしていきます。教室での勉強だけでなく、畑に行ったり、大学のキャンパスに行ったり、農場に行ったりすることも農大稲花小の勉強です。読んだり書いたりするだけでなく、いろいろなものを見たり、聞いたり、食べたりすることも農大稲花小の勉強です。それだけでなく、お友だちと一緒に遊んだり、運動したり、実験をしたりするのも、農大稲花小の勉強です。学校の外に出かけて、いろいろな人からお話を聞くのも、農大稲花小の勉強です。不思議な勉強、わくわくする勉強がたくさんあります。勉強

って、本当に楽しいことばかりです。

農大稲花小での勉強を、楽しみにしててください。

さて、新入生の皆さんは、冒険という言葉を知っていますか？ 冒険っていったいなんでしょう。

農大稲花小では皆さんに、いろいろな冒険をしてもらいたいと思っています。でも、冒険といっても、危ないことや怖いことをするのは、本当の冒険ではありません。本当の冒険には強いところやからだ、そしていろいろな準備も必要です。今までできなかったこと、難しそうなことにも勇気を出して取り組んでみることに、これが農大稲花小の冒険です。恥ずかしがらずにお話をしたり、質問することも冒険です。あまり好きでないものも、少しだけ食べてみるのも勉強です。わからないことがあったら質問をすることも、冒険かもしれません。今まで知らなかったことを調べたり、自分の考えをしっかりと伝えることも、冒険と言えます。新入生の皆さんには、毎日、たくさんの冒険をしながら、大きくなってほしいと思っています。

さて、ここからは皆さんのお父様やお母様にもお話をします。新入生の皆さんは、静かに聞いてくださいね。

あらためまして、保護者の皆様には、お子様のご入学おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

難関だった本校の入学試験を突破して、本日、入学された一年生 72 名は、農大稲花小の第六期生となります。2019 年 4 月にスタートした農大稲花小は、皆様のお子様を新入生として迎え、はじめて 1 年生から 6 年生までがそろうこととなります。教職員だけでなく、上級生になる子どもたちの誰もが、新入生の入学を心待ちにしていました。

また、入学式を挙げるにあたり、学校法人東京農業大学 理事長 江口文陽先生にご登壇いただいております。本来であれば、この機会にご祝辞を賜るところですが、幼い子どもたちが主体の入学式であることにご配慮いただき、式次第への掲載に替えさせていただいておりますことを、ご了承ください。江口理事長にはご祝辞をありがとうございました。また、本日は同じく、学校法人東京農業大学 理事並びに統括校長 金田喜明先生、学校法人東京農業大学 特別顧問 大澤貫寿先生、東京農業大学稲花小学校教育後援会会長 西 雄大様にもご登壇いただいております。西 様にも式次第へのご祝辞をいただきありがとうございました。学校法人東京農業大学の大きなご支援、また、教育後援会と保護者の皆様の応援をいただきながら、農大稲花小は創立以来六年目の春を迎えることができました。

農大稲花小の校舎は、地上 4 階地下 1 階建、屋上プールや特別教室、また、毎日の給食を調理する給食室などを備え、校地総面積約 8098 m<sup>2</sup>となっています。農大稲花小の子どもたちが、健康に楽しく学校で過ごせるように、様々な工夫のある素敵な校舎です。この校舎やグラウンドに、元気な子どもたちの声が毎日響くのが農大稲花小です。

さて、東京農業大学の創設者である榎本武揚公は、「教育とは、セオリー、すなわち理論、とプラクティス、すなわち実践の二者が車の両輪のように並び行われることで、はじめて完全なものとなる」という理念を持っていました。農大稲花小のカリキュラムも、体験を重視し、体験したことから考え、表現し、知を獲得する学び、そしてそこから確かな学力や人間力を身に付けることを目指しています。まさに、農大稲花小の子どもたちは、榎本公が掲げる理念の最も若い後継者といえます。さらに、榎本公は、未知なるものにひるまず、困難に立ち向かうことの大切さを、「冒険は最良の師である」とオランダ語の書に表現しています。農大稲花小は、この言葉に基づき

「冒険心の育成」を教育の理念として掲げています。冒険心とは、自分にできないことや、新しい未知なる世界に挑む気骨と主体性をもち、本気になって取り組む心のことです。私たち農大稲花小の教職員は、学校法人東京農業大学の大きな支援のもと、また東京農業大学が今まで培ってきた教育資源を活用して、冒険心をもって科学的・実践的に学べる子どもを育てまいります。義務教育である小学校としての教育をしっかりと行いつつ、五感を大切に、体験を重視すること、食や農、環境への理解を深めること、英語を含めコミュニケーション力を養うことなど、農大稲花小ならではの教育を行ってまいります。本校の子どもたちは、東京農大の世田谷キャンパス、厚木キャンパス、北海道オホーツクキャンパス、さらに、伊勢原・富士・宮古の農場を訪問し、「東京農大の小学校」の子どもたちらしい学びを続けています。

どのような将来になるのかは定かではない、激動する社会に生きていく子どもたちです。しかし、確かな学力やコミュニケーション力を備え、そして何より冒険心を持った子どもたちは、どのような社会になっても、地球のどこにあっても、きっと活躍し、幸せな人生を歩むことができるでしょう。

保護者の皆様、そして、ご来賓の皆様のご理解とご協力を仰ぎながら、私たち教職員一同も、新入生の一人一人を大切に、愛情を注ぎながら、教育に当たってまいります。今日の日が、それぞれのお子様の夢、ご家族の希望を叶える第一歩となることを願っております。

新入生の皆さん、お話を静かに聞いたのは立派でした。

最後に、東京農業大学稲花小学校新入生の皆さん、今日、外では桜の花や、チューリップの花がたくさん咲いています。制服やランドセルにも早く慣れて、お友だちとともに毎日、元気に楽しく小学校で過ごしてください。

ご入学おめでとうございます。